

## ○ アクションプランの反省

### 1. 「徳」に関する教育活動

重点項目	徳 生徒指導（好ましい人間関係の構築）		
重点課題	自分から進んで挨拶ができる子供の育成		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手から挨拶をされたとき、挨拶を返すことができる子供が多いが、自分から進んで気持ちのよい挨拶ができる子供は多くない。</li> <li>・友達に対して、適切な言葉遣いで話したり、優しく接したりするなど、相手を思いやる言動をすることができない子供や、よりよい関わり方が分からない子供がいる。</li> </ul>		
達成目標	自己評価カードの達成率80%以上を目指す。		
方 策	<p>◎「挨拶運動」の継続、充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営委員会が中心となり、挨拶を活性化させる策を考えたり、代表委員会から各学級へ提案して意識を高めるための話し合いを設定したりして、挨拶運動の充実を図る。</li> </ul> <p>○好ましい人間関係づくりに努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝活動や学級活動の時間にソーシャルスキルトレーニングや対人関係ゲームを適切に取り入れる。</li> <li>・児童会が中心となり、互いの違いを認め合い、思いやりをもって気持ちよく生活するための活動を推進する。</li> <li>・ふわふわ言葉を広めたり友達のよさを紹介したりするための取組を学級や学年、学校全体で行う。</li> </ul> <p>○家庭や地域と連携して挨拶の習慣化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校便りや学年便り等を通じて学校の取組を知らせたり、家庭での挨拶のより一層の活性化を呼びかけたりする。</li> </ul>		
今年度の取組	<p>○運営委員会が中心となり、挨拶の活性化に向けての取組を話し合い、毎朝、なかよしルーム前で挨拶運動を行った。2学期には、「挨拶ボランティア」を募集し、児童が自由に挨拶運動に参加できるようにした。友達と一緒に参加できることが児童の意欲を高めることにつながり、普段は挨拶に消極的な児童も進んで取り組む姿が見られ、朝から元気な挨拶が校内に響き渡った。</p> <p>○挨拶に対する意識を高めるため、5、10、2月の生活目標を「気持ちのよい挨拶をしよう」という挨拶に関する内容に設定した。生活目標の掲示物に挨拶のポイント（「おじぎをして」「元気な声で」「目を合わせて」「相手の名前を呼んで」「笑顔で」）を示し、児童がよりよい挨拶を意識できるようにしたところ、相手の名前を呼んだり目を見て挨拶をしたりする児童が増えた。</p> <p>○学期に1回、挨拶強調週間を設け「自分から進んで挨拶をする」「自分が決めた+1ができた」の2項目について、重点を置いて取り組んだ。「自分が決めた+1」とは、上記の生活目標に記載したポイントと同じ内容の中から、一つを選んで取り組むことである。自分でがんばるポイントを決めたことで、より主体的に挨拶をする児童が増えた。強調週間が終わっても「〇〇先生、おはようございます。」と、おじぎをしたり目を見たりしながら挨拶をしたり姿が多く見られたことから、よりよい挨拶習慣が身に付いてきたことがうかがえる。</p> <p>○週1回程度、朝活動の時間に人間関係づくりの活動を行った。協力して活動したり学級のよさを認めたりする活動を行うことで、学級としてのまとまりや受容的な雰囲気や育ってきた。</p> <p>○12月の人権週間中には、各学級で人権に関わる絵本の読み聞かせを行った。学年ごとに「多様性への理解」「子供の権利」等の異なるテーマを扱い、発達の段階に応じて人権について理解を深めた。また、読み聞かせの感想を学級内で共有し、よりよい考えや思いが学級内に広がるようにした。その後、全学級の感想を書いたカードをなかよしルームに掲示することで、より多様な考えや思いを共有することができるようにした。児童は、普段意識することのなかった人権について知ること、より温かい学校をつくってほしいという思いを強くしているようであった。</p>		
結 果		自分から進んで挨拶をすることができた	よりよい挨拶にするための「+1」に取り組むことができた
	1学期	76.6%	72.4%
	2学期	77.7%	79.3%
	3学期	81.0%	81.4%
<ul style="list-style-type: none"> <li>・どちらの項目も、目標の80%を越えた。</li> <li>・自分から進んで挨拶をする児童や、よりよい挨拶をしようとする児童が多く見られるようになった。挨拶の習慣化には効果が見られた一方で、普段から挨拶をしない児童が一定数いるので、その児童に対する働きかけが必要である。</li> </ul>			
最終評価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶への意識のたせ方の工夫によって、自分から進んで挨拶をしようとする意識が高まってきた。今後も挨拶の習慣化を目指し、自分から進んで挨拶ができる児童がさらに増えるように働きかけていく。</li> <li>・人権について考える機会をもつことや、学級で人間関係づくりの活動を行うことで、よりよい関わり方や好ましい人間関係について考えることができた。それを普段の生活の中で実践しようとする児童も増えてきている。今後も、周囲と温かく関わることができる児童の育成に努める。</li> </ul>	
外部評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供たちの方からよく挨拶してくれる。顔を見て大きな声でしてくれるので、大変嬉しい。今後も、継続して取組を行い、自分から進んで挨拶ができる子供の育成を目指していく。</li> <li>・名前を呼んで挨拶する取組は大変よい。今後も続けてほしい。</li> </ul>		
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が自分から進んで挨拶をしたいと思える学校の雰囲気づくりを進め、よりよい挨拶の一層の習慣化を図りたい。また、好ましい人間関係を構築していくことができるよう、効果的な取組を考え、積極的に実践したい。</li> </ul>		

